

パンドラつうしん 第21号

2003年02月20日発行



雁が音中学校から、ステキなプレゼントをいただきました。業務用の大型掃除機とカードラミネーターです。雁が音中学校の皆さん、ベルマーク委員会のみなさん、ありがとうございました。大切にに使わせていただきます。

今回の内容

- パンドラの会からメッセージ **2p・4p・5p・6p**
- パンドラの会、最近のニュース **7p**
- パンドラの会からのお知らせ **8p**

障害者雇用について

「おかし工房の危機」が朝日新聞に掲載され、多くの方々の暖かいご支援を頂き、有難うございました。寄付金・賛助会費を始め、暮れには贈答品として多くの注文を頂き、とても助かりました。しかしながら、この忙しさについていけない障害者の方々が出てきたのも事実です。今年の4月に入った3名の方と、以前にいた方1名が12月をもって退職されました。この4名の内2名は、パンドラを立ち上げてきた古いメンバーです。

そんなこともあり、いろいろ心を痛めました。一番心を痛めたのは、今まで懸命にここまで頑張ってきたご両親です。「どうして?」と思いながら、去っていかれたのだと思います。どんな障害者もおかし作りならやれるはず。やれる仕事があるはず。との思いでお菓子屋を始めたのです。しかし、売れるお菓子、美味しいお菓子、市場価格、この3点をクリアしようとする、障害者のみではやはり無理があります。それに、NPOとして経営できる状態にするにはそれなりに売上も要求されます。多くの商品を作らなくてはなりません。まだ育っていないパンドラの障害者の方々にはとても負担だったようです。忙しさにかまけて、一人一人の様子を細かくチェックできていませんでした。細かい配慮が出来ていなかったのだと思っています。やめていかれた方々には本当に申し訳なく思います。今回のことを踏まえ、今後はこのようなことの起こらないように配慮をして行こうと思います。

先日愛知県立岡崎養護学校で学校関係者・企業・職業安定所関係の人向けに学校見学及び、討論会が開催されました(写真)。その討議の中で、就職後の定着率がかなり悪いという話を聞きました。本人が悩んでいるのに気づかないケースが多いようです。特に知的障害者は、企業側もどうして良いか分からないということでした。おかし工房では企業よりは、緩やかで、働きやすかったと思っていたのですが、同じようなことがおこりました。これを防ぐには、養護学校との連携を深いものにしていく必要があると思います。学校から送られてくる資料だけでは、その子の特徴などほとんど分かりません。今後は、担任の先生などから、積極的に事前情報をもらう必要があります。そして、親御さんが細かいことでも、相談していただけるような機会を多くもちたいと思います。障害者雇用については、今後も多くの問題が起こってきます。NPO法人パンドラの会の理念を忘れず、より良き方向に向かって進んでゆきたいと思います。(理事：岡部)



アイシン・パンドラ・スキーツアー

2月16日、今年で4回目となった恒例のスキーツアーが、雨の中、岐阜県の揖斐高原で開催されました。雪景色をパンドラのメンバーに見せたいね！という昨年の反省から、今年はじめて、開催場所と日時が変更されました。おかげで、治部坂とは違った本当の雪景色を見ることが出来ました。雪景色が目に入ったとたんパンドラのメンバーから「うあー！すごい」の歓声が上がりました。アイシン精機（株）のさわやかの方、Biwithメンバー・余暇グループの方々の暖かい心が伝わったと思っています。今年初めて参加したパンドラのメンバーの中に、歩行介助のいる方がいましたが、アイシン精機の皆様が快く介助して頂いたお陰で、そり遊びを充分楽しみ、お風呂にも入り、とても喜んでいました。パンドラのメンバーは全員、それぞれに雪遊びを楽しみました。有難うございました。また来年もよろしくをお願いします。



パンドラを応援する会からのメッセージ

平成14年度は、パンドラの会は資金不足で危機に陥って大変な年ではありましたが、秋からの沢山のバザー、クリスマスケーキとバレンタインチョコの予約販売で何とか乗り切ることができました。それも、パートさん達の多大なご協力によるものだと感謝しております。一般ボランティアさんにも忙しい中本当によくお手伝い頂きました。本当にありがとうございました。

パンドラを応援する会としても一人一人できるかぎりのことをするよう努力致します。養護学校の現況をみると、一般企業に就職できる人はほんのわずか、そして、作業所等も満員であり、これからも卒業して社会に出る人の行き先がとても不安である中、私たちのような活動をする必要があるようになってくると思います。パンドラも多くの人を受け入れる体勢も作っていかねばなりません。難しいことですが、誰にでも合う作業所造りを目指して一層頑張る必要があると思います。これからもパンドラの会をよろしくをお願いします。（応援する会：館林）

NPO のマネジメントとパンドラの今後を思う

特定非営利活動に関わる法律が制定されて数年が経過し、六千を超える団体がこの法律によって、いわゆる「NPO」という法人格を取得して様々な活動を展開しています。事業の対象がいくつかの分野に限定されているなど一定の制約があるものの、NPO法人認証への門戸は開かれているといった印象で、「NPO」という名称とともに、その存在や活動が市民権を得始めてきていると考えられます。中でも、福祉サービスを行う「福祉型NPO」は、従来からある社会福祉法人とは違い、その運営や事業内容に大きな自由度が与えられたといえるでしょう。行政のサービスとも違う、また民間事業者とも違う視点で活動を展開しており、これからの福祉社会の実現に向けて注目されているように感じます。

ところで、公的な支援を受けているのだから当然といえば当然のことですが、従来の社会福祉法人は、どこにいても同じような建物（構造）で、同じような職員がいて、同じような業務を行っているように思います。私も、過去にいくつかの社会福祉法人に関わったことがあり、当時は何とも思わなかったのですが、今思えば、「お金（予算）はお上から自動的に下りてくるもの」という部分があったことは否めません。他にも、「新しい事業を展開すること」や、「日々の業務を見直す」という意識も欠けていたように思われます。一方、新しく発足した福祉NPOは、事業内容や人員配置など自由な発想が許されていて、勢いと活気に溢れているという感じですが、今までなかったようなサービスが新しい形で提案され、社会全体の利益につながることを期待されることでしょう。

しかし、福祉型NPOがこれからの福祉分野の一翼を担っていくとは考えにくい側面もあります。介護保険制度下で民間事業者が参入したときと同じようなことが、より顕著に現われると考えられるからです。

例えば、

- ・ スタッフの専門性の保障がない。
- ・ 他の福祉機関や組織との連携が弱い。
- ・ 事業の継続性や、問題が発生した時の責任のあいまいさ。
- ・ 公平性に欠ける。
- ・ 利益分野への集中。あるいは、利益の出る対象者を意識的に選別。
- ・ 社会全体として考えれば公的責任の退行。

などが考えられる他、何よりも事業を成り立たせるために「はじめにお金（予算）ありき」となってしまう、長期的に見れば職員をはじめそこに関わる全ての人たちの、意欲の低下が懸念されます。福祉NPOに関しては、市民活動の域を出ることは難しいのでしょうか・・・。

さて、障害のある人たちがお菓子を作る私たち「パンドラの会」について、有名なP. F ドラッカーの「NPOの自己評価手法」5つの質問を用いて振り返ってみたいと思います。

Q1. 我々の使命は何か？

理念は素晴らしい。ただ、日常的に資金繰りに悩んでおり、長期的に見て実現可能か疑問は残ります。また、現行制度では福祉事業を展開するためには「社会福祉法人」というスタイルが必要だとも思われます。NPO法人では限界があるのでしょうか？

Q2. 我々の顧客は誰か？

正直いって誰なのでしょう。利用している障害者でしょうか、あるいは広く考えて社会全体でしょうか。これは今後考えていかななくてはならない課題だと思われます。

Q3. 顧客は何を価値あるものと考えるか？

これも今後考えていきたい問題です。上の質問と併せて、明確に答えられないことが今のパンドラの課題なのだと思います。

Q4. 我々の成果は何か？

組織を立ち上げた関係者や運営しているスタッフの成果、あるいは売上・資金確保の成果ばかりが目まぐるしく注目されているように感じます。真の成果や目標をもう一度考えてみる必要があると思います。

Q5. 我々の計画は何か？

何のため、誰のためのパンドラなのでしょう。このままだと少しずつ、少しずつ歪がたまっていくことが予想されます。

以上、少々厳しくも現実的に評価してみました。やはり上で述べたように、日々お金のことばかり考えていて、視点は明らかに「福祉」から「経営」へ、同時に活動の中心は障害のある人から周りのスタッフへと移りつつあるように感じます。自由な取り組みと引き換えに、これはやむを得ないのでしょうか。長期的に考えた場合、大きな犠牲を伴うことが予想され、非常に不安でもあります。福祉NPOをマネジメントしたり、障害者福祉の動向や理念を追求するという点に関して、現在のパンドラが抱える弱点であるようにも思われます。

今回、「おかし工房パンドラ」においてメンバーの異動がありました。会の運営に対する警鐘として、関係者全員が受け止めなければならないことだと思います。（パンドラの会：田引）

パンドラの現状について思う。

おかし工房の資金不足もなんとか切り抜けることができました。しかし、まだ問題は山積みでこれからのパンドラについて何度も話し合われました。

理事会にも参加する中で私は、障害者になにを教えていけばいいのだろうと考えてしまいました。パンドラを通過点とし、社会にでることを目指すとするなら、お菓子をつくることを一生懸命教えることは無駄なのか、その家庭において社会的ルールやマナーそれ以前に働くということをお教えるべきではないのかなと感じています。現状では、親が社会にでることを願っても、本人たちはパンドラは居心地がよく社会に出たいとおもう障害者はいないと思います。パンドラがゴールになりつつある今、もっと厳しくしていかなければという話も出ました。4月から新しい体制でいくことになるのですが、それがうまく機能するのかどうか疑問です。11月より安城の更正病院にもパンドラコーナーが常設され順調に売れています。また、(株)サンバレーとの共同企画で誕生日ケーキと花束セットで配達も承ることになりました。また、(株)デンソーとは贈答品の話も進んでいます。安定した仕事量が確保できますが、そうなるとう全部が障害者主体で動くということは困難だと思っています。またどこかでお母さんたちの手を借りざるをえなくなるのではないかと感じています。クリスマスやバレンタインにはパートさんも含め夜遅くまでボランティアで働いていただき、本当にありがたいことだと思っています。

経営難になり、どうしても資金稼ぎに走ってしまい、障害者のことや理念がどこかに置き去りになってしまったところがあったのではないかと反省しています。

他の作業所にはない魅力があるからこそ、みんなが注目し、多くの協力を得られてきたと思います。今よりもっと前進していくためにもひとつひとつの問題に真剣に取り組んでいきたいと思っています。

(パンドラの会：鈴木)

生チョコ大絶賛！！バレンタイン也大盛況

クリスマスに続いて、バレンタインも好評でした。今年は、生チョコとチョコケーキのセットを新たに加え、販売しました。最初は50個くらいだろうと予想していたところ、なんと200個も売れ、全体では600個の売上がありました。

2月13日、14日には、刈谷生活協同組合(株)デンソー本社売店、刈谷総合病院売店、安城厚生病院売店の3カ所で店頭販売をし、たくさんのお客様にお買い上げいただきました。ご協力ありがとうございました。丁寧なご指導をしていただいた、フォーレのご主人に感謝いたします。

大好評のクリスマスケーキ 600個超える！！

毎年恒例のクリスマスケーキは、たくさんの注文をいただき600個を超えました。昨年より150個ほど上回りました。今年は、昨年同様人気のチーズケーキ、チョコケーキ、フルーツパウンドケーキの他、新たにコーティングしたチョコケーキを限定商品として販売いたしました。こちらは限定商品ということもあり、すぐに予約終了となり、好評でした。お買い上げくださった多くの皆様、ボランティアで遅くまで手伝ってくださった皆様のご支援に心より感謝申し上げます。



福祉体験学習の受け入れ

1月に竜北中学校より3名、2月には刈谷東中学校より3名、かりがね中学校より3名がお菓子工房にやってきました。障害者と一緒に仕事をし、思っていた以上の働きぶりとその能力にびっくりしていました。長時間の立ち仕事で疲れた様子でしたが、最後までがんばってくれました。この体験を通して、障害者に対する考えが少しでも変わったのではないかと感じています。このような機会を大切に障害者に対する理解を深めていってほしいとおもいます。お疲れさまでした。



ご寄付ありがとうございました(受付順)

(有)ジャパンイースタントレードさま	10万円
アイシン部次課長会さま	42000円
スマイルハートクラブさま	50000円
(株)デンソーさまマッチングギフト	277164円
雁が音中学校生徒さま、ベルマーク委員会さま	業務用掃除機・カードラミネーター

賛助会員ありがとうございました(受付順)

※ UFJ銀行に直接振り込んでいただいた方はカタカナ表記になっております。ご了承下さい。

また氏名等間違いがありましたらお手数ですがパンドラまでご連絡下さい。

川村治子さま	近藤和江さま	森 清さま	神谷朱美さま	小島恵美さま	佐々木里枝さま
山本令美さま	竹内錦司さま	山田竜一郎さま	牧野清光さま	北原敬之さま	加藤武司さま
小山剛史さま	森本敏司さま	上東 章さま	三宅 聖さま	中西進介さま	岩崎 智さま
(有)天美堂さま	浦野浩子さま	田中 浩さま	渡辺伸一郎さま	岡野由季さま	菅沼守人さま
中野伸二さま	神谷芳磨さま	米田正寛さま	上嶋孝広さま	宮川 功さま	熊地三佳さま
池上俊宏さま	大橋孝次さま	小田修司さま	近藤義夫さま	山本 博さま	田辺日登美さま
山口 良さま	稲垣 博さま	高橋清美さま	小山広志さま	中島義則さま	小森義史さま
木島 司さま	沢村 修さま	越野達磨さま	中村明博さま	松橋 肇さま	藤田俊雄さま
村下 孝さま	西谷泰治さま	鳥居好孝さま	与田茂子さま	日笠信義さま	服部又市さま
鈴木鎮司さま	堀尾光男さま	ニイミマサトシさま	ミヤケミサコさま		

賛助会員を募集しています

1. 会員の方には活動状況等を載せた年間4回発行の会報をお送りいたします。

2. 年会費のご案内

一般会員 1口 2,000円

法人・企業会員 1口 10,000円

3. 郵便局振込先：郵便局 00810-7-120120

「NPO法人パンドラの会 おかし工房パンドラ」

4. 銀行振込先：UFJ銀行 東刈谷出張所

口座番号 1053427

口座名 「特定非営利活動法人パンドラの会 理事 岡部扶美子」

※領収書につきましては、振込用紙の領収書・会報での記載をもって 代えさせていただきます。

尚領収書が必要な場合はご連絡ください。